

■覚如(宗昭) 本願寺第3世。浄土真宗の3代(法然・親鸞・如信)伝持を主張、本願寺を創建し、真宗教団の基礎を確立。

かくによ

・ ・ ・ ・ ・ 1270= 京都三条富小路で、_親鸞の娘覚信尼の子覚恵の長男に生まれる。

二月騒動・ ・ 1272= 2歳：母が死去。

元寇文永の役1274= 4歳：慈信房澄海に就学。

宋滅亡・ ・ ・ 1277= 7歳：慈信房澄海より「初心抄」五帖を授けらる。

無学祖元来日1279= 9歳：

元寇弘安の役1281=11歳：

日蓮没・ ・ ・ 1282=12歳：竹なか宰相法印宗澄に就学。

沙石集・ ・ ・ 1283=13歳：園城寺南滝院の浄珍に誘拐され、興福寺一乗院の信昭の室に入る。大和菅原の覚昭に給仕す。

北条時宗没・ 1284=14歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1286=16歳：印寛により_出家受戒。

・ ・ ・ ・ ・ 1287=17歳：善鸞切子如信から_真宗の信仰を受ける。

・ ・ ・ ・ ・ 1288=18歳：唯円に法門を問う。

・ ・ ・ ・ ・ 1290=20歳：父覚恵とともに親鸞の東国遺跡を巡拝。途中、相模余綾山中で善鸞・如信に面謁。長子存覚誕生。

・ ・ ・ ・ ・ 1292=22歳：関東より帰洛して大谷に居住。阿旦房彰空に就学。勝縁に一念義を学ぶ。

平禅門の乱・ 1293=23歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1294=24歳：***「報恩講私記」を作る。**

・ ・ ・ ・ ・ 1295=25歳：第二子従寛が誕生。「親鸞聖人伝絵」を作る。

・ ・ ・ ・ ・ 1296=26歳：澄海らの紗物・秘書類を良海から譲られ、これらにつき、隆寛の思想を学ぶ。

永仁徳政令・ 1297=27歳：

後二条天皇・ 1301=31歳：長井導信の依頼で「拾遺古徳伝」を著す。

・ ・ ・ ・ ・ 1302=32歳：訴訟費用募金のため東国に下向。***父覚恵より大谷廟堂の留守職を譲られる。**

・ ・ ・ ・ ・ 1306=36歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1307=37歳：東国下向の途中、岡道場にて、「上宮太子御記」を披見し、和田宿坊において書写。奥州野辺の了専・了意父子とともに奥州に赴く。こののち、延慶三年留守職就任まで、法興院辻子や宇治三室戸に居住。

将軍追放交替1308=38歳：関東の門弟上洛し、唯善の追却を訴えられて奔走。この頃、今出川上綱と小野宮中将師具の女に通ず。

・ ・ ・ ・ ・ 1309=39歳：唯善と青蓮院にて対決し、青蓮院門跡の裁決により唯善に勝つ。門弟へあて懇望状を書く。

・ ・ ・ ・ ・ 1310=40歳：東国へ下向したが、東国門弟の同意を得て大谷に還任し、廟堂留守職に就任。本廟を復興し影像を新造。

・ ・ ・ ・ ・ 1311=41歳：存覚を伴い越前に下向し、大町如道の許に滞在。伊勢に赴く。奥州へ下向。

・ ・ ・ ・ ・ 1312=42歳：如信の旧跡にて一三回忌を修す。法智のすすめで大谷堂舎に専修寺の額を掲げるが、叡山の反対で撤去。今出川上綱を離別し相如を娶る。

・ ・ ・ ・ ・ 1314=44歳：存覚とともに尾張に下向。_存覚に留守職を譲る。この頃、久遠寺を創建か。

・ ・ ・ ・ ・ 1315=45歳：大谷堂舎を出て一条大宮の窪寺附近に借住。「閑窓集」を編集。

文保御和談・ 1317=47歳：存覚夫妻とともに天王寺へ参詣。相如(御領殿)を離別。

後醍醐天皇・ 1318=48歳：善照房を娶る。

・ ・ ・ ・ ・ 1319=49歳：覚恵二回忌を大谷と東山真如堂にて修する。存覚を伴い三河・信濃に布教、飯田寂門を勘気につし、善教を直参とする。

・ ・ ・ ・ ・ 1320=50歳：空性房了源が門下に入る。

後醍醐親政始1321=51歳：北野聖廟に詩歌をささぐ。

・ ・ ・ ・ ・ 1322=52歳：存覚の留守職を剥奪して義絶。女子(のち壬生雅康室)生る。

・ ・ ・ ・ ・ 1323=53歳：如信画像を修復し、裏書を加う。

正中の変・ ・ 1324=54歳：**妙香院門主慈慶の下知状により、留守職と存覚義絶を認めらる。**

北条氏外執権1326=56歳：_「執持抄」を著わす。

元弘の変・ ・ 1331=61歳：_「口伝抄」を著わす。

・ ・ ・ ・ ・ 1332=62歳：***奥州の如信の旧跡にて三三回忌を修し、廿四輩を定めたといわる。守邦親王より、本願寺ならびに久遠寺祈薦所とし、留守職を安堵する旨の令旨をうる。**

鎌倉幕府滅亡1333=63歳：**護良親王より本願寺と久遠寺を祈薦所とし、留守職を安堵する旨の令旨をうる。**

二条河原落書1334=64歳：青蓮院門跡慈道親王より、留守職安堵状をうる。

南北朝分裂・ 1336=66歳：戦火をさけるため近江瓜生津で越年。不在中大谷御影堂や親鸞影像が焼失。

・ ・ ・ ・ ・ 1337=67歳：近江より帰洛、久遠寺に入り、ついで壬生雅康邸に移る。「本願抄」「改邪抄」を著わす。

足利尊氏將軍1338=68歳：瓜生津愚咄の斡旋をうけ、存覚の義絶をとく。存覚とともに鎌倉常葉へ親鸞御影を迎えにゆくも、途中尾張より引きかえす。高田専空の尽力により、本願寺の建物を三六貫で買い取り、大谷に移建。

後醍醐天皇没1339=69歳：覚恵三三回忌を壬生雅康邸に修す。雅康邸より大谷に還任。留守職継承のことに関し、置文四通を書く。

・ ・ ・ ・ ・ 1340=70歳：_「願々抄」を著わす。

五山制定・ ・ 1342=72歳：再び存覚を義絶。留守職安堵・存覚義絶のことに関し、青蓮院若宮の令旨をうる。

・ ・ ・ ・ ・ 1343=73歳：_「最要抄」を著わす。

・ ・ ・ ・ ・ 1344=74歳：名帳・絵系図等の禁制状に、空如以下の連署を加えさせる。

・ ・ ・ ・ ・ 1346=76歳：奈良春日社・大原勝林院・大谷城内の竹杖庵にて歌をよむ。

・ ・ ・ ・ ・ 1347=77歳：従覚より水晶念珠を贈られ、歌を贈答。「尊師和讃抄」を編集。

・ ・ ・ ・ ・ 1348=78歳：従覚・宗康とともに天の橋立に遊ぶ。

観応の擾乱始1350=80歳：久遠寺の善照尼の墓を訪れ歌をよむ。存覚に赦免状を出す。存覚を寺務職につけない旨の置文を書く。宗康(善如)へ別当職讓状を書く。

・ ・ ・ ・ ・ 1351=81歳：法心を使とし、書状を河内滞在中の存覚に与える。病態となり_没した。